



君津支部かわら版

VOL.57

令和5年1月31日発行

編集 君津支部広報委員会

発行 支部長 斉藤 孝一



『“建築と子供たち” in君津 Vol.15』(写真提供 君津支部 田村 啓 氏)

- ◎新年のご挨拶 . . . 支部長 斉藤 孝一
- ◎全国大会に参加して . . . 事業委員長 鶴岡 正久
- ◎建築と子供たち Vol.15 報告と活動を終えて
 . . . 副支部長 伊藤 啓司
- ◎振り返ってみますと . . . 広報委員長 代島 恵美子
- ◎編集後記 . . . 広報委員長 代島 恵美子



◎新年のご挨拶

千葉県建築士会君津支部 支部長 斉藤 孝一

新年あけましておめでとうございます。令和5年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。新たな希望を胸に穏やかな新年をお迎えになられたことと存じます。

会員の皆様には当支部の諸事業に対しまして、日頃より一方ならぬご支援・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、近年建築業界は努力だけではカバーしきれない世界的な潮流（流れ）の中にある様に感じます。高騰する建材費に加えて設備機器の部品調達が滞り納入の遅延、そして今後も続くと予想される「人材の不足」、その中で会員の皆様は影響を最小限に留めるべく最大限の努力をされていることと存じます。建築業界だけではなく、物価高騰によりあらゆる業種の企業が非常に厳しい状況に直面しているのではないのでしょうか。

ただ、当面は見えない敵との戦いが続き、長期化が予想されますが、現下の難局を乗り越えた先にある力強い成長を実感できるであろう今後の建築業界、そして会員と共に『活躍する建築士会君津支部』として、会員の皆様から真に頼られる組織で在り続けるために、会員の皆様の声を結集して諸事業を推進して参りたいと考えておりますので、本年も一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、新しい年が会員の皆様にとりまして、輝きと飛躍に満ちた年となりますことを心よりお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。



◎全国大会に参加して

千葉県建築士会君津支部 事業委員長 鶴岡 正久

新年明けましておめでとうございます。日頃より建築士会並びに、事業委員会に御協力頂きまして誠にありがとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年は新型コロナやロシア・ウクライナ情勢の影響により、ウッドショックや人手不足等で色々と苦労されたことと思います。今年は会員の皆さんにとって良い年になりますようにお祈り申し上げます。

第64回建築士会全国大会『あきた大会』が、昨年の10月14日に開催されました。当時はコロナも落ち着いた頃であり、3年ぶりのオンサイト大会で行われました。個人的には大分大会以来の参加でしたが、今年は君津支部の有志の3人で参加しました。天気にも恵まれて、暖かくて、素晴らしい3日間でした。

まず1日目は、羽田空港を出発して1時間後には秋田空港に着いて、直ぐにレンタカーを借りて角館にむかいました。「みちのくの小京都」と呼ばれる角館では、江戸時代の面影が色濃く残る武家屋敷通りを散策しました。その後に秋田市に戻り、会場のあきた芸術劇場『ミルハス』へ行きました。6月に竣工したばかりの素晴らしい建物です。

今回の大会のテーマは『建築で挑戦！郷土のこれから』、会場でも色んな交流があり、他県の建築士会の人たちとも会話をする機会もありました。色々なブースの中で私の大好きな秋田杉があり、年輪の幅が揃い、木目が細かく美しく、多種多様な製品が揃っている秋田杉は、まさに秋田の宝であると改めて感じました。食べ物もおいしいし、秋田美人はいるし、秋田はとってもいいところですよ。

2日目は、秋田自動車道と東北自動車道で岩手県に移動して、平泉の世界遺産中尊寺、金色堂、毛越寺、巖倉山と見学し、奥州藤原氏の繁栄の跡を満喫しました。

3日目は、宮城県東松島市の東日本大震災復興伝承館に行って来ました。この施設は、『東日本大震災の記録や復興状況などを展示・紹介し、広く後世に伝承することで、



写真1：ミルハス会場入口



写真2：中尊寺金色堂

震災の風化を防ぎ、防災意識の醸成を行うことを目的』としています。当時の駅のホームがそのまま残っていたり、被災当時の津波被害の映像が映っていたり、壁の掛時計が被災した時刻のままだったり、10年前の福島大会の時に自分の目で見た被災直後のあの風景を思い出しました。



写真 3：東日本大震災復興祈念公園看板



写真 4：東日本大震災遺構伝承館

その後は松島に行き、伊達政宗の菩提寺の国宝瑞巖寺や、円通院を見学しました。日曜日ということもあり、松島は非常に賑やかであり、復興した景色を見て改めて感動しました。

建築士会の全国大会は、『建築士の連帯と意識の高揚を図るために、毎年1回、全国47都道府県の建築士会会員が一堂に会し、諸行事を行う中で、建築士会が担っている社会的役割と責任に対する意識の高



写真 5：瑞巖寺正門



写真 6：瑞巖寺本堂

揚を図り、建築文化の進展に寄与することを誓うと共に、まちづくり交流プラザ、セッションにおいては、広く一般市民の参加を募り、建築士に対する認識を深めて頂くと同時に、建築士会会員相互の連帯を一層深めることを目的』としています。

来年は10月27日『しずおか大会』です。会場は静岡グランシップ、大会テーマは『歴史と文化の継承～ローカルに生きる』、『しずおか大会』は、全国大会ならではの見どころ満載です。来年は、みんなで一緒に静岡に行きましょう。



写真 1：完成した竪穴式住居前で焚き火(ドローン撮影)

新年明けましておめでとうございます。まだまだコロナ禍の中ではございますが、今年もよろしくお願い致します。

さて、令和4年4月30日に引き続いて建築と子供たち Vol.15 を同年10月1日に開催しました。支部の事業から本部の事業に代わり本部の方々の協賛も得られ、開催する度に100名近くの方が参加するイベントになりました。4月30日までに築造した竪穴式住居は骨組みのみでしたが、屋根工事と内装工事を施し完成に至り、お披露目を10月1日に行いました。4月の時もそうでしたが10月も雨続きで作業の進行が出来ず工期が遅れましたが、何とか期日までに竣工できました。

出来上がった竪穴式住居は、屋根や内部の素材選びや雨仕舞いなど大変でしたが住めるかどうか分かりませんが、何とか竪穴式の形にはなったと思います。作制して思ったのですが、言葉も文字も道具も無い縄文のいにしえの人たちはどう考え、どう作ったのかと思いをはせながら作制していました。

建築は無から有を作り出す難しさと出来上がって時の達成感が融合するものです。いにしえの人たちは様々な自然環境に対応するためと危険から自分たちを守るために必要にせまられて築造したのだらうと思います。無から有を作るのは、非常に難しかった

と思いました。

私も作制して大変でしたが、出来上がった時はとてもうれしく達成感がありました。見学に来てくれた子供たちも楽しんでくれたと思います。

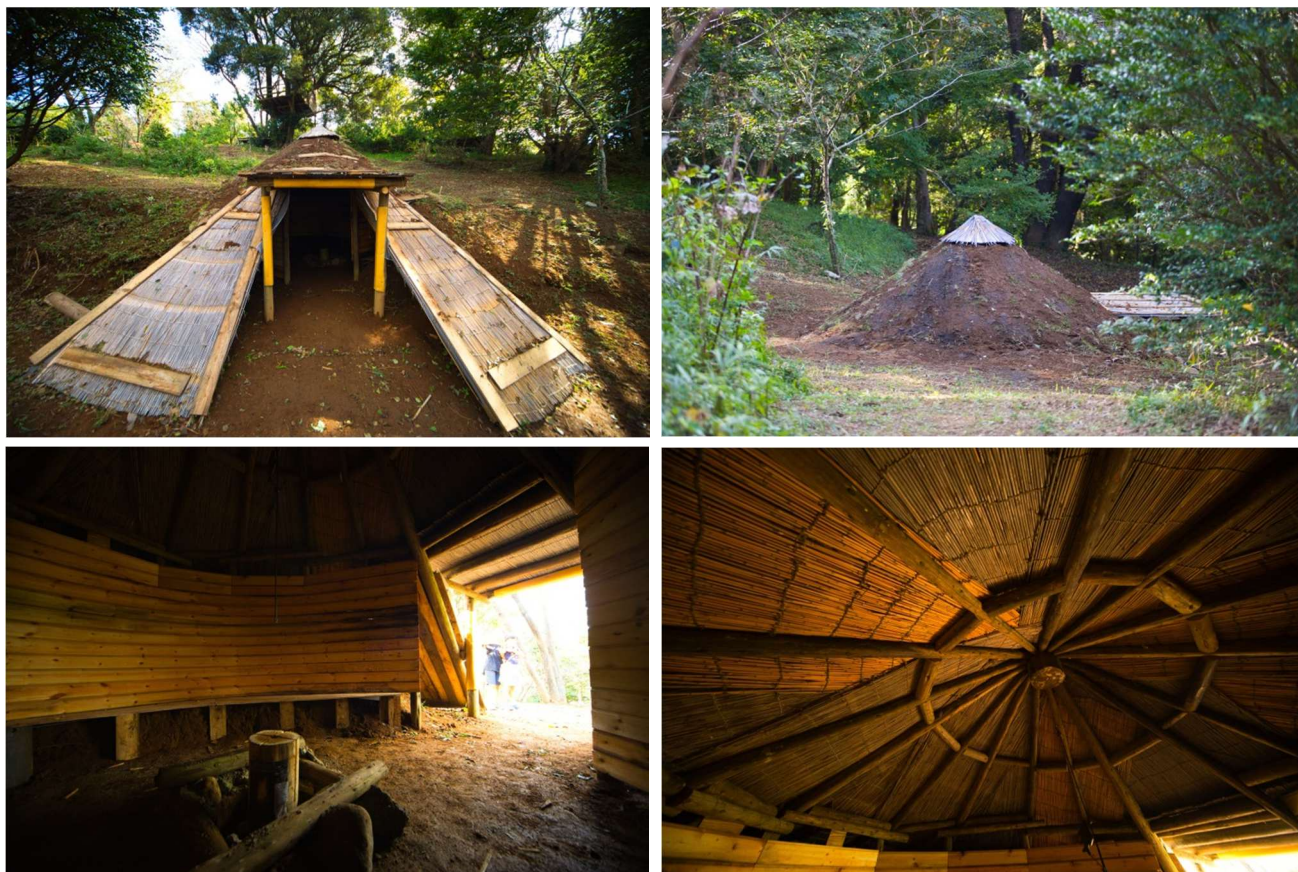


写真 2～5：完成した竪穴式住居

左上：正面入口 右上：左上側より 左下：内部 右下：天井部(不要な葺簀を再利用)

第 1 回建築と子供たちは、平成 16 年 3 月 16 日に君津森林交流センターでスタートしました。

私は最初、“建築と子供たち”とはなんぞやと思いながら活動していましたが、回を重ねるごとにハードルが上がり大変でしたが、参加してくれた子供たちが私が発する言葉に目を輝かせて聞いてくれて、作業を教えながら一緒に行う事が楽しみになり、その子達が建築と子供たちを通じて建築に対して親近感が湧いてくれたと思い活動を続けてきました。

建築と子供たちの運営チームは金光朝子運営委員長をトップとし、男・女・年齢を問わず自分の役割・仕事をキチンとこなすチームであります。一つのことを皆で共有する素晴らしさがこの事業のコンセプトで特に子供たちに建築を通じて何か伝えることと、建築士会の理念である社会貢献・自己研鑽の理念で事業を行ってきた私たちの歴史の一部です。

最後に、この事業も会員の少子高齢化の波には逆らえずこの度終了させて頂きたいと
 思います。まだこの里山にはツリーハウスと今回築造した竪穴式住居が残っていますが、
 徐々に解体作業を行い終了します。この事業に携わって頂いた皆様に感謝を申し上げる
 と共にこの里山を提供し続けてくれた（株）ケンソーの重田夫妻に感謝致します。有り
 難うございました。今後はまた違った形のイベントを若い会員を中心に行って頂く事を
 期待したいと思いこの事業を終結します。皆様ご協力ありがとうございました。以上で
 す。



桧丸太の名札作り



竹食器作り



竪穴式住居で囲炉裏料理



シャボン玉作り



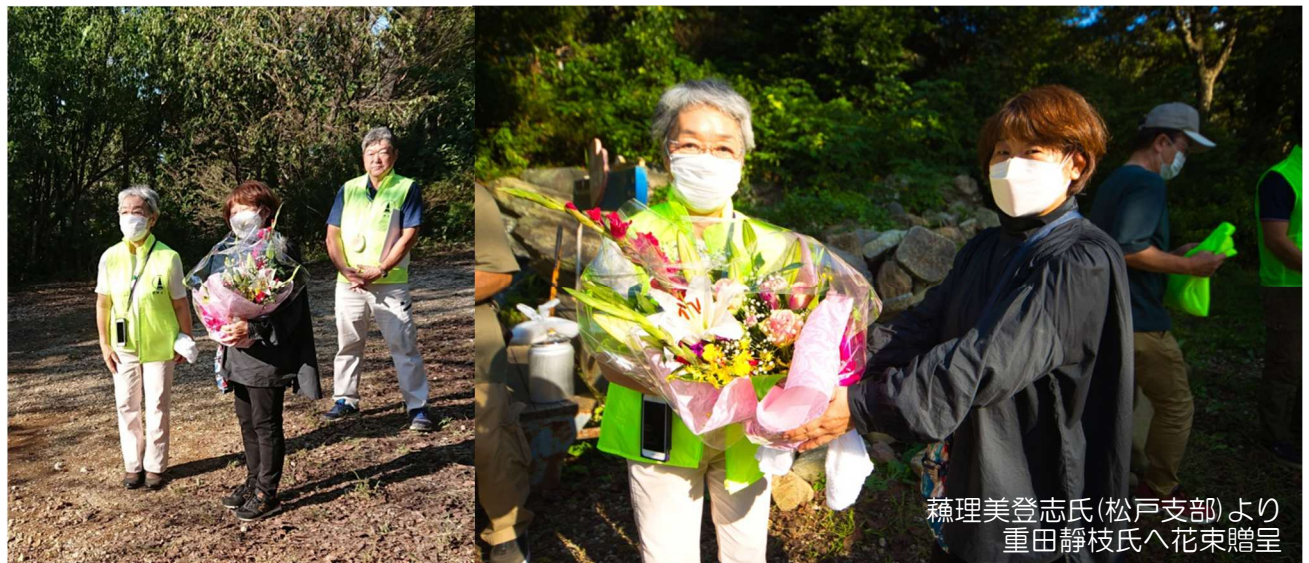
子供たちとツリーハウス



竪穴式住居前で焚き火



昼食タイム



◎振り返ってみますと

千葉県建築士会君津支部 広報委員長 代島 恵美子

人生 100 年時代、どれくらい生きられるかわかりませんが、70 歳代に入ってから色々今まで生きてきたこと、漠然としてしまっているところを整理してみたくなる今日この頃です。

一級建築士は 57 歳で取りました。苦節 10 年かかりました。その間旅行にも行かず、好きな趣味もできず、ただただ我慢の受験勉強時代でした。コロナ禍でもここ 3 年、どこへも行かれず家にこもっていました。

事務所を開設したのが平成 13 年 3 月でした。その頃は、これから家を建てようとする方にどんな建物を提供するのが良いか自分なりに勉強しようと、いろいろな建物を見学させていただきました。遠くは新潟県十日町のカール・ベクス氏の手掛けている古民家移築の集落の建物も見に行きました。またエコ 'S の会に入会してエコロジー住宅の勉強もしたりしました。当時、高气密・高断熱住宅やエアサイクルホーム等、選択肢は色々でした。高断熱など千葉県の風土には合わない、必要ないでしょうという意見の方のほうが多かったようですが、今や世の中は、脱炭素に向かい高性能な省エネ住宅が義務化される時代となっています。

「建築と子供たち」の取り組みも最後となってしまいましたが、思い起こせば第 1 回目に当たり金光元女性委員長のもと、姉ヶ崎の韓国料理屋さんで女性委員が集まり、何をしましょうかと相談し、そこでベンチづくりにしようという決まり動き出しました。そしてその頃、袖ヶ浦市の小・中学校の先生や生徒さんに協力をお願いして、デザインを募集し、選考会を開き、青年委員の方に設計図書を起こしていただき、子供たちと一緒にカンナ削りなど教えながらベンチを作り、完成させました。よくぞ皆さん協力してくださったと、つくづく懐かしく思い起こされます。

これからの建築業界の事を考えますと、今でも空き家が多くましてやこれからも増えるであろうことは歴然としています。新築の着工棟数は減少する中で中古住宅の売買件数は増加しているようです。そんな中古住宅の表面だけをきれいにリフォームして売るのではなく、耐震改修も合わせてして売買すべきだと考えています。そんなことを制度化できたらよいのではと思いますが・・・

我々大人は次世代の子供たちにより良い環境を残していかなければならない使命があると思いますので、「建築と子供たち」の活動もしかり耐震診断・改修業務など少しでも人様のお役に立てる活動は、微力ではありますがこれからもお手伝いしていきたいと思っています。

また一方で、健康に留意しながら、のんびりと野菜を作ったり、趣味の大相撲観戦に出かけたりして過ごしていこうと思う今日この頃です。



編集後記

広報委員長を仰せつかり丸6年となりました。

事業委員長におかれましては10年以上されていると伺いました。

なかなか新しい会員は増えない、ましては脱会される方が非常に多い中、引き継ぎたくともできない状況です。

かわら版のデザインも内容もマンネリ状態で申し訳ないと思っています。

今はただ、実行されている数少ない行事の内容をできるだけ会員の皆様にお伝えしたいという思いで各委員長さん、担当者に原稿を依頼してご協力いただいております。どうかご理解の上ご了承ください。

また何か会員のために参考になる情報、ご意見等がありましたらどしどしご投稿いただけたらありがたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

今年一年、活発な支部活動ができますよう祈念して結びます。

かわら版はご投稿いただいた皆様のお陰で何とか発行することが出来ました。ご協力ありがとうございました。

かわら版についてのご意見、ご希望がありましたら下記アドレスまでお寄せください。お待ちしております。

アドレス：emiko-daishima@hb.tp1.jp

広報委員長 代島 恵美子

事務局

〒293-0001

千葉県富津市大堀1335番地

TEL・・・090-6103-7185

FAX・・・0439-29-7272

E-mail・・・chibakenchiku@sikaikimitu.parallel.jp